

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホーム ひまわり A棟		
所在地	福島県郡山市安積4丁目334-1		
自己評価作成日	平成26年 11月 16日	評価結果市町村受理日	平成27年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成27年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、職員が笑顔で過ごし、明るい雰囲気作りをしています。
理念に基づき、個々の能力を活かしながら本人が望む生活が送れるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、職員間の情報共有や連携が円滑に行われ運営に関する意見要望等も職員会議の中で自由に話し合えるなど就労環境に配慮した事業所である。そのため、職員は定着し経験年数が高いため利用者が望む介護サービスに反映されている。

2、認知症に対する医学的知識を研修し、日常的な生活を観察しながら行動パターンを理解し、症状に応じた介護支援を行うための介護計画を作成し支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いや意識を盛り込み分かりやすい言葉で作成した。申し送りの際に再確認し実践につなげている。	法人の理念は毎年職員間で検討しており、設立当初の理念が地域密着型サービスを提供するための最もふさわしい理念であると、全職員が理念の意義を十分理解し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し地域清掃や敬老会などに参加している。またホームでの夏祭りに地域の方の来訪もある。	町内会の一員として地域行事である敬老会や、清掃活動に参加し交流を図っている。また、家族の協力を得て利用者の住所地の敬老会にも参加し馴染み人たちとの交流も行われている。事業所の敷地を活用した夏祭りにも地域の人たちが参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までは至らず、今後関係機関や職員と話し合いながら取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的を開催し取り組んでいる事や課題を話し合い、意見や地域の情報を頂いている。また、利用者様も参加していただき意見や思いを話して頂いている。	運営推進会議を効果的に活用し事業所運営に反映させている。特に利用者が複数参加し率直な意見が出されている。また、避難訓練の際の避難場所についても適切な意見が出され実践している。今後、議事録中、利用者に対する支援内容については的確に記録するよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者との連携を図り地域情報を教えていただいたり、課題解決に向けた相談をしている。	事業所運営を支援している医療法人が適切な業務処理を行うために行政との協力関係を築いている。介護サービス相談員が月2回訪問した際には利用者サービスについて話し合いをしており、率直な意見交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容と利用者にも与える苦痛を全職員が認識し身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 現在、家族からの要望はないが今後あった場合は十分な説明と話し合いを持ち納得を得られるようにしたい。	身体拘束をしないケアについて内部研修を行い、全職員が理解し実践している。利用者との身体的な差から威圧的な印象を受けやすいこともあるので言葉かけや対応にも十分留意している。日中玄関も施錠もされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての理解と遵守をスタッフ会議で話し合ったり、勉強会を開催し徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が研修に参加し、その後勉強会を開き情報の統一や知識を高めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約・料金改定の際は十分な説明の時間を取り、不明な点を随時確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも話して頂ける環境作りをしている。日頃の会話や様子から思いを汲み取り、サービスに反映出来るよう努めている。	運営推進会議では2～3名の利用者の代表や家族が参加し意見・要望等が出され、それらの意見が運営に反映されている。例えば家族の意見により、数か所の避難場所を利用者が直接確認するなどして避難訓練の際の参考にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見、要望を聞き反映させている。又、日常の中でも言いやすい心がけている。	職員会議等で意見要望を聴く機会を設けており、自由に発言できる環境を整えている。現在のところ要望提案等はないが、本人の意向を尊重し夜勤体制の改善や介護福祉士資格手当の支給等が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援や研修会への参加等、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じて研修会に参加している。又、スタッフ会議で報告を行い内容の共有化・実践に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで意見交換をする等、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごしていただけるよう寄り添い傾聴をし気持ちを受け止める事で信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って気持ちを受け止めたり、不安な事・要望等に耳を傾けながら信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において同じ目線に立ち考える事で信頼関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も参加出来るような行事を考え、一緒に楽しんでもらえるよう機会を作っている。面会時や電話・手紙等で利用者の現状を伝え、ご家族の思いを受け止めるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コミュニケーションを大切にし、過ごしてきた時代を教えていただきながら、大切なものを知る事で、関係が途切れないように努めている。 友人の面会がある方もいる。	入居前に知り合っていた利用者同士に対しては、一層なじみの人間関係が継続できるよう支援している。また、友人が食事会を企画し利用者をお誘いするなどしており、職員は継続して参加できるよう配慮している。家族との関係についても途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を熟知する事で、良好な関係が保てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に困った事があればいつでも連絡をしていただけるよう話しをしている。 また、移り住む先の関係者に対し、情報を提供している。 また、利用者が思いを表出しやすいよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの情報をもとに、個々に合わせたサービスを提供出来るよう職員で話し合い、情報の把握に努めている。	家族等からの入居前の生活情報やセンター方式による「暮らしの情報」「焦点情報」等を活用し利用者が希望する暮らし方を把握し、また、日頃の言動や身体的状況を観察しながら利用者本位の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や、家族・関係者から生活歴や経過を聞き、職員間で情報を共有しより良いケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録・業務日誌・連絡表を用いて、日々の変化を職員全員が把握し個々に合わせた支援を行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見や要望を大切に、日々の関わりやサービス担当者会議での意見等を反映させながら作成している。	職員間で利用者の状況や課題等を話し合い、利用者、家族が望む支援内容を検討し介護計画に反映させている。PDCAサイクルに即した支援が行われている。介護実施記録については利用者の状況観察記録が多いため、今後、サービスを提供した実施記録の記載を行うこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は業務前に確認し情報の共有・実践に努めている。また、介護計画見直しの際に振り返りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化やその時々状況に応じてケアプランや支援方法を見直し、本人に合わせたサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや訪問理容・訪問販売等を活用している。また、地域清掃へは毎回参加し関係作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援している。また、往診体制も出来ている。	かかりつけ医への受診は、基本的には家族が行っているが、利用者の状況によっては職員が同行し、医師からの伝達事項等は職員が口頭や手紙などで家族へ伝達するとともに、連絡帳と個人記録に記し職員間で情報を共有している。往診を中心に行っているクリニックとの協力体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来園し健康チェックをしていただいている。また、体調の報告をし主治医への報告や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と情報交換を行い、常に状況を把握し受け入れ出来る態勢を整えている。入院中は面会に行ったり主治医との話し合いに参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期に対して家族や医師と話し合い方針を共有化している。変化があれば随時医師と連携し、家族とも意思を確認し合いながら支援している。重度化、看取りに関する指針や連絡表を用い全職員の意思統一を図っている。	看取り指針が作成され職員間で意思統一している。同意書により家族に事業所の方針を伝えて同意を得ている。看取り介護計画に基づき看取り支援経過を記録し、日々の変化については、医師と連携を取り家族の意思を確認し同意を得ながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には適切な行動がとれるようマニュアルがあり勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と毎月防災訓練を行い万が一の場合の対応ができるようにしている。又、避難の優先順位を決めている。運営推進会議にて災害時の協力を呼びかけている。	夜間想定も含め、家族の参加を得て避難・防災訓練を行い、また、風向き等も考慮した訓練も実施している。消防署立ち合いの消防訓練も年2回行っており、運営推進会議で委員から避難場所確保の提案や利用者が広域の避難場所を直接確認することの必要性が提案され実践している。備蓄も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや人格を尊重し、気分を損ねない声掛け・対応をしている。	個人情報に関する基本方針を掲示し、個人情報保護に関する職員研修も年間計画に掲げ実施している。個人情報に関する記録は、カギ付のロッカーに保管し適切に管理されている。日頃より利用者本位の接遇に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々が自己決定できるような声掛けを行い支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ、その時の心身の状態を考慮しながら支援をしている。 希望や要望があれば、可能な限り実現できるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に対応したり、助言をしながらお洒落が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者ととも職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	個々の能力に応じた作業を手伝って頂いている。食べたい物を聞いて献立に取り入れたり、外食へ出かけるなど、楽しみを持ってもらえるよう支援している。	オープンキッチンで職員が食事の準備をする様子が分かる。利用者が一緒に料理をしたり、洗い物をすることもある。目の前でおやつホットケーキを焼いたり、特別食としてラーメン、回転寿司にでかけるなど食事の楽しみが得られるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない方には、常に摂取量が把握できるよう表を使ったり、個々に合わせた声掛け・支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた方法で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、誘導・声掛けを必要に応じ行っている。また、出来る事は行って頂くように支援している。	排泄チェック表を基に利用者の排泄パターンを把握し、水分量や身体的状況等を見ながらさりげなく誘導したり、声をかけるなど自立排泄に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供したり、適度な運動を支援している。また、主治医と連携しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴していただき、仲の良い利用者同士で入ることもある。	利用者が希望する時間帯で週2～3回の入浴支援を行っている。就寝前を希望する利用者にも対応している。声掛けを行い、入浴剤を使用したり利用者が入浴を楽しめるよう配慮し、冬場は脱衣所の保温も行うなど入浴環境にも留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の様子に合わせて休息を促したり、就寝前に会話をする事で落ち着いた状態で休めるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示や薬剤情報を確認し共有化を図っている。変化があれば経過観察を行い、情報が共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた作業をお願いし、都度お礼の言葉をかけている。 個々に好きな事を提供し楽しんでいただけるように支援している。(塗り絵・歌・DVD鑑賞等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に合わせて買い物や食事に出かけた後、家族様に協力していただきながらお墓参りに行かれるなど、外出の機会を作り支援している。	日常的に買い物等気分転換を図るための外出支援を行っている。また、春は、景勝地の桜見物に利用者の家族の支援も受けながら外出している。イチゴ狩りや夏の猪苗代湖などにも出かけて季節により自然を満喫できるよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、支払いが行える方がいないため職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも利用できるようにしており、ゆっくりと話して頂けるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた温度・湿度の調整、光の具合やテレビの音量などに気を付けている。 花や装飾、レク活動を通して季節を感じられるよう工夫している。	新興住宅街にあり穏やかに過ごせる環境である。高い天井から懸垂されている照明は落ち着いた共用空間を演出している。畳のスペースにこたつがあり寛げるようにしている。天窓にすのこをつけて直射日光をやんわりと遮る工夫をしている。ウッドデッキを活用し外気に触れることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの他畳やソファ、暖かい日はウッドデッキのベンチなどで自由に過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	好みの物や使い慣れた物・写真などを持ち込んでいただき居心地良く安心して過ごせるよう支援している。	思い出の品や使い慣れたものなど持ち込めるよう配慮され、家族の写真を飾ったり、自分の部屋が分かりやすいようにネームプレートに立体的な造花を付けるなど、個々の状態、希望に沿って安心できる住環境づくりに努めている。なかには、インコを飼っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・居室には分かりやすい目印をつけ、混乱せず場所が把握できるよう工夫している。		